

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	クリエイティブサポートくじら（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日		2024年 12月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26人	(回答者数) 16人
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日		2024年 12月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの特性を理解し、一人ひとりに合わせた支援ができている。 ・将来を見据えた支援を行っており、法人内の成人サービス事業所との連携ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症や強度行動障害があるこどもに対して、一人ひとりに合わせたスケジュール表の提示や声掛けの工夫などできている。 ・法人内の就労継続支援B型事業所や生活介護事業所との連携のもと、将来を見据えた支援を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症や認知行動についての理解をさらに深め、行動に対する意味などをしっかりわかるように支援者スキルを上げていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・広いプレイルームや敷地があり、自由にからだを使った活動や遊びが天気に左右される事なくできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症蔓延防止のために、室内の清潔保持ができるように日々取り組んでいる。 ・敷地内の除草作業をしっかり行い、夏場の害虫やけがなどからこどもを守るようにした。 ・戸外活動の時には安全確認をしっかり行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時について、机上での理解はできているものの、実際にしっかりとこどもを守る事ができるように、訓練の回数を増やしたり、保護者や地域を巻き込んだ訓練をしている。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の悩みにはいつでも相談に乗れる体制ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも保護者へ寄り添い、相談しやすい環境を整えた。対面だけでなく、電話やメール等での相談もタイムリーに対応するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への相談の対応は、事実に基づかないものになったり、感情的な表現での言葉にならないように相談内容に対する支援が適切であったかを常に確認をできるようなシステムを構築していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・セラピストがいない為、言語面や体の使い方など専門的な訓練の提供が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語面や体の機能面で、こどもの発達段階に合わせた個別でのプログラム作成や、保護者へのアドバイスができない事がある。 ・日常生活動作や生活スキルを細かく訓練できない。 ・心理的サポートや行動療法ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内のセラピストによる定期的な訪問と、勉強会等を行い、パラプロフェッショナルの仕組みを作っていく。 ・気持ちのプレゼンテーション訓練やルール・絵カードを使っでの視覚化等多面的な支援をする。 ・将来的にはセラピストの在籍を目指す。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や、保護者参加の行事を行っても参加率が悪く、会自体をしていないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会の案内は文書とLINEで送っているが、出席率も悪く、出席か欠席かの連絡も来ない家庭が多い。 ・面談やアンケートの際に保護者会がないと言われるが、している事を伝えても不思議そうな顔をされる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文書やLINEだけではなく、一人ひとりの保護者へ直接話をして趣旨や目的、場所などを詳しく伝えるようにしていく。開催時期が年度はじめだったので、次年度は夏以降の開催にしてみる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・重度障害のこどもが多く、活動内容に幅を持たせられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団～集団での支援の場合には活動内容が重度障害児ができるものを行う事が多くなってしまふ。 ・軽度のこどものレベルで活動ができない時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用日を整理して、活動をこども一人ひとりに合わせていく。